【神遊第一回公演】

「神遊（かみあそび）」を結成しました

私たち若手の能楽師5人は、能の伝統を守り、受け継ぎ、未来に伝えてゆくために、どのような活動をすべきか考えました。能を学習し、自らの芸を磨きつつ、能楽堂以外の空間での上演など、多くの試みも企画していきたい── 私たちの活動を通じて、能に触れられたことがない、私たちと同じ世代の皆様にも、能を身近に感じて頂けたら、本当の面白さを伝えられたら、私たちにとってこれに勝る喜びはありません。

一噌隆之（一噌流笛方）　柿原弘和（高安流大鼓方）　観世元伯（観世流太鼓方）
観世喜正（観世流シテ方）　宮増新一郎（観世流小鼓方）

番組

舞囃子　安宅　滝流し
ATAKA　*Takinagashi*

シテ・武蔵坊弁慶	梅若六郎
笛	一噌隆之
小鼓	宮増新一郎
大鼓	柿原弘和
地頭	梅若晋矢
地謡	山崎正道
地謡	角当直隆
地謡	奥川恒治
地謡	遠藤喜久

能　望月
MOCHIZUKI

シテ・小澤刑部友房	観世喜正
ツレ・安田友治の妻	藤波重彦
子方・友治の子花若	梅若慎太朗
ワキ・望月秋長	宝生欣哉
アイ・秋長の供人	野村萬斎
笛	一噌隆之
小鼓	宮増新一郎
大鼓	柿原弘和
太鼓	観世元伯
主後見	観世喜之
後見	五木田三郎
後見	弘田裕一
地頭	梅若六郎
地謡	梅若晋矢
地謡	山崎正道
地謡	角当直隆
地謡	奥川恒治
地謡	遠藤喜久
地謡	鈴木啓吾
地謡	古川 充

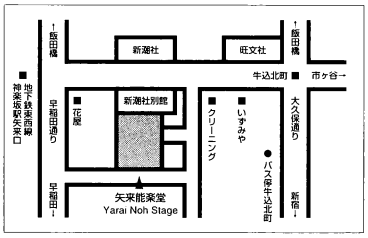
曲目解説

〈安宅〉　義経・弁慶の物語の中でも特に有名な関所越えの場面を描いたもので、同じ直面（ひためん）（＝面をかけない役柄）をシテとする曲でも＜望月＞とは大分趣を異にする。舞囃子では、その後半部分が抜粋される。

〈望月〉　信濃の国の住人・安田友治は、同郷の望月秋長（ワキ）に殺された。遺された妻子や縁者も望月に命を狙われ、ちりぢりになっている。友治の妻（ツレ）と子・花若（子方）が追手から逃れてたどり着いた宿屋、その主人こそ友治の忠臣・小澤友房（シテ）であった。

再会を喜び、友治の無念の死を改めて嘆きあう三人。すると何たる奇遇か、敵の望月その人が友房の宿にやってくる。一計を案じた友房は、望月に酒を振る舞い、芸能者になりすました花若親子とかわるがわる芸を披露する。油断した望月が眠ったところを取り押さえ、花若と友房はめでたく仇討ちを果たすのであった。日本の文芸の素材として広く用いられる仇討ちの物語。本曲のそれは架空のものと思われるが、舞台はたいへんドラマチックに展開する。また、劇中で演じられるツレの「クセ」、子方の「羯鼓（かつこ）」シテの「獅子」といった芸能は、囃子方共々すべての演者の見せ場・聴かせどころである。

平成9年7月19日（土）午後2時始まり（開場午後1時）
御入場料（全席指定税込）正面 6000円
正面桟敷・脇正面・中正面 5000円
お問合わせ・電話予約 0422-47-3795（有）神遊 事務局



矢来能楽堂
Tel 03-3268-7311
東京都新宿区矢来町60 地下鉄東西線神楽坂下車（矢来口より徒歩三分）

次回公演のご案内
小劇場・シアタートラムにおいて能の連続公演を試みます
平成9年9月25日(木)～28日(日)　能・船弁慶ほか 出演・神遊ほか 会場・世田谷パブリックシアター シアタートラム